

# Living the Lotus 1

2024

*Buddhism in Everyday Life*

VOL. 220



立正佼成会 サンアントニオ支部

## Living the Lotus Vol. 220 (January 2024)

【発行】立正佼成会 国際伝道部  
〒166-8537  
東京都杉並区和田2-7-1 普門メディアセンター3F  
Tel: 03-5341-1124 Fax: 03-5341-1224  
E-mail: [living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp](mailto:living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp)  
編集責任者: 赤川 恵一  
編集チーフ: 三川 紗知  
校閲者: 小坂 和正、菊池 克之  
編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生き、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life (法華経を生きる～生活の中の仏教) というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



## 「心田を耕す」精進を

立正佼成会会長 庭野日鏡

### 「精進は荷を運ぶ牛で……」

みなさま、あけましておめでとうございます。

「門ごとにたつる小松にかざされて宿てふ(という)やどに春は来にけり」は、家々に春がおとずれる晴れやかな気分を詠んだ、西行法師の新春を寿ぐ歌です。新年に門前を松で飾る家もいまは少なくなりましたが、この日本のすがすがしい正月風景のようにさわやかな気持ちで、お互いさま、一年を明るく元気にすごしてまいりたいと思います。

ところで、私たちは仏さまの教えを学ばせていただき、そのことによって人間として一歩でも二歩でも向上したいと願っています。それは、けっしてかなわぬ願いではなくて、仏のように生きようと思い立ち、教えに随って精進していれば、いつでも人間としての成長や向上の喜びが得られると教えていただいています。

ただ、仏道修行や精進と聞くと、りっぱに努めなければ、すばらしい人であらねばと感じる人も多いようです。しかし、初期の経典「スッタニパータ」のなかで、釈尊は「精進は荷を運ぶ牛で、安穩の境地に運んでくれる」と説かれています。この表現には苛烈さや謹厳な印象などみじんもなく、むしろゆったりと静かに荷車を引く牛の姿や、牛が犁を引いて田を黙々と耕す様子が思い浮かびます。そのようなことを念頭において、私たちもまた急がず休まず、仏の教えをとおして心の田を耕しながら、人生をゆったりと歩むことが大切ではないかとの思いから、およそ四半世紀前に、私は『心田を耕す』を上梓いたしました。

そのなかで先の一節もご紹介しましたが、それは釈尊の肉声にもっとも近いとされる

聖典の詩偈をとおして、宗派や経典の違いを越えて共通するもの、仏教が教える人間の生きる基本をみなさんといっしょに考えたいと思ったからです。そのうえで、釈尊が伝えたいと願われたことをシンプルに受けとり、日々の生活のなかで無理なく実践することが、安穩の境地へ向かう精進ではないかと思うのです。

では、釈尊が伝えられたかったこととはなんでしょうか。

## とぎれることなく

開祖さまは、「〈人間はおなじ〉・〈すべては一つ〉……これが仏教の根本思想にほかなりません」と明言しています。そのことに目ざめれば、ものの見方が変わり、生き方が変わり、そういう思いに立つ人がたくさんいる世界になれば、みんなが仲よく生きられる——それが仏教の教えるところだということです。たとえ教団や宗派は違っていても、みな「一人ひとりの命は等しく尊く、有り難いもの」「みんな一つの「いのち」につらなる仲間」という釈尊の教えのもとで一つに結ばれ、それを人びとの性質や多種多様な求めに応じてそれぞれに表現しているのだと、私は受けとめています。

曹洞宗永平寺の貫首をつとめられた山田靈林師は、「道元禅師は何を見ても何を聞いても、それが『自分自身』であることを感じられました。(中略)わたしたちが『他人』と呼ぶところを、禅師は『他己』と申されます。他は他であるが、それがそのまま『己れ』として感ぜられ、その喜びも悲しみも『己れ』の喜び『己れ』の悲しみなのであります」(『大法輪』第三十六卷・第三号)と記され、それが「人間のほんとうの生活」だということです。

仏道における厳しい修行も精進にちがいませんが、私は日常生活のなかで、自分本位の欲や怒りや嫉妬に心を惑わされるたび、「人間はみな同じ」「すべては一つ」という心に立ち返ることが精進であり、それをとぎれることなくもちつづけるのが私たち人間の生活、釈尊の願いに根ざす生き方であると思います。この気持ちで、日々の何げない言動を支えるものになるよう心田を耕しつつ、一日一日を健やかに、安らかに歩んでまいりたいものです。

(『佼成』2024年1月号)





## 仏さまの教えを広めて、ニューヨークの街を変えていきたい

ニューヨーク教会長 ジェームズ・リンチ

ニューヨーク教会長に就任した現在の心境を聞かせてください。

教会のリーダーやスタッフの皆さんは本当に素晴らしく、彼らの姿をおして私は開祖さまが示された人さまのために生きる菩薩の精神を強く感じています。今は開祖さま、会長先生、光祥さまに少しでも追随できるよう、私自身これから何をしていくことが皆さんのお役に立つことになるのか——ただそれだけを考えています。

ニューヨーク教会に初のアメリカ人教会長が誕生したわけですが、それをどのように受けとめていますか？

歴代の教会長さん方は心からアメリカを愛し、これまでその慈しみと行動力によってニューヨークの街を包んでくださり、皆さんニューヨーカーになられたと思っています。私はこのたび、ニューヨーク教会では初めてのアメリカ人教会長に就任しましたが、それは歴代の教会長さん方が、これまでいろいろな手段で仏さまの教えを伝え示し、導いてくれたからこそ心から感謝しています。そうした教会長さん方がつくってくださった道私はゆっくりでも休まず一歩ずつ歩んでいきたいと思っています。

ご自身が信仰するようになったのはいつごろですか？またそのきっかけを教えてください。

立正佼成会には母が1992年に入会し、私は2代目の会員です。母はとても深い信仰を持っており、ニューヨークで差別や暴力などの犯罪や社会問題が起こるたびに、「私たちは仏教徒として何ができるのだろう」と、いつも心を砕い



亡き母マリアンさんと共に



インタビューの中で今後の決意を語るジェームズ・リンチ教会長

1963年生まれ。ブラウン大学を卒業後、弁護士として活動。ブルックリン大学で教鞭をとる傍ら、立正佼成会ニューヨーク教会の英語グループ主任、渉外部長を務め、立正佼成会国連代表、WCRPアメリカ委員会財務担当を歴任。信仰2代目。2023年12月、ニューヨーク教会教会長に就任。

ていました。その母が2007年に肺がんを患い、そのことがきっかけで私は真剣に法を求めるようになったのです。あるとき母は「私の代わりに教会へ行って、病気の回復を祈ってね。私には、あなたの助けが必要なよ」と言いました。今考えると、その言葉は私を真に仏さまの道へと導くための方便だったのではないかと思います。

2008年に母は「ホスピス」(終末期の苦痛を和らげる治療やケアを行なう施設)に入所しました。そして2009年3月に亡くなるまでの間、病床に伏していても心臓病と認知症の父の身を案じながら、「お父さんは元気になっている？私が逝った後は、ちゃんとあなたがお世話してね」と私に言っていました。仏教では「今の瞬間を大切に」ということを教えています。母は最期の時を迎えるまで「今の瞬間を懸命に生きる」ということを身をもって私に教えてくれたように思えてなりません。それは、私に命を授けてくれたことと同じくらい、母から私への大切な贈り物でした。

## 教会ではこれまでどのようなお役を務め、どんな活動がされてきましたか？

私は教会では英語グループ主任として、毎週日曜日に法華経やご法話の勉強会の講師をさせていただいてきました。講義の前の4日間のご著書を深く読み込むとともに、妻にプレゼンテーションしてから勉強会に臨んでいました。私は講義をとおして何とかして仏さま、開祖さま、会長先生と会員さんをつながたい、そして教えによって参加者の人生が変わるようなかわりをしていきたいと思います。

また、対外活動を担う渉外部長という立場でニューヨーク仏教協会に加わり、ニューヨーク市の数々の社会プロジェクトに参加してきました。ニューヨーク仏教協会は宗派を超えた仏教団体で、中国、韓国、台湾などに拠点を置く80団体、90万人以上が加盟する全米最大の仏教連合体なのです。これまでの主な活動としては、ヒロシマ・ナガサキの犠牲者の慰霊供養をはじめ、アジア系市民へのヘイトクライム(憎悪犯罪)や黒人差別に反対する抗議集会や平和行進の指揮などを行ってきました。

そうした活動に積極的に取り組むうちに私はニューヨーク仏教協会の事務局長を務め、2017年には寺院の住職などの仏教指導者が数多く在籍する中、在家仏教教団の一信者にもかかわらず会長に選出されたのです。それは私にとって非常に大きな驚きでしたが、《今まで以上にニューヨークの街のために貢献しなさい》という仏さまのからいとして、そして開祖さま、会長先生の名代、立正佼成会会員の代表という気持ちで会長職を受けさせていただきました。開祖さま、会長先生が求めていることを目指していくことは、私にとってとても大切なことでした。その後、2期4年を経た現在は後任の会長をサポートする副会長を務めさせていただきます。

私が会長の任期中に、驚くべき出来事がありました。



ニューヨーク教会長就任式のあとで会員と共に(前列右から3番目)

ニューヨーク仏教協会が初めて市庁舎で集会を開催した時のことです。協会の代表として私がスピーチをした後に、ニューヨーク市長のエリック・アダムス氏から「ニューヨークをみんなが幸せに暮らせる街にしていけるためには仏教の智慧が必要です。今、私たちはあなた方のような仏教徒を求めているのです」という思いもよらない言葉をいただいたのです。そのとき私は改めて開祖さま、会長先生の教えの素晴らしさ、立正佼成会会員であることに誇りを覚えました。

## 「経典」の中で大切にしている経文はなんですか？

懺悔経(仏説観普賢菩薩行法経)にある「一切の業障海は皆妄想より生ず。若し懺悔せんと欲せば端坐して実相を思え。衆罪は霜露の如し慧日能く消除す」という一節です。物事をありのままに見る真理の光によって、まるで太陽の光や熱で雪が溶けるように、いろいろの罪はあっても、たちまち消えてしまうと。懺悔で最も大事なものは、理想と現実との差を認識して反省し、教えを実践することです。すると人生が即座に変わります。ですからこの一節は、私たちが仏さまの教えを実践さえすれば人生を明るく前向きに生きていける希望の名句だと確信しています。

## 開祖さま、会長先生の教えの中で心にとめている言葉を教えてください。

「すべての出会いを大切に」と「まず人さま」という言葉を日々の心の支えにさせていただいています。私たちが旅に出るのにコンパスと地図が必要なと同じように、人生において開祖さまと会長先生の教えが必要です。目的地や進むべき方向を示し、明確にしなければ旅も人生も迷ったり、途方に暮れたりしてしまいます。例えていうならば、開祖さまの言葉は人生におけるコンパスであり、会長先生の言葉は人生における地図のようなものです。先行き不透明な世の中にあって、私たちが確かな、そして豊かな人生を歩むためには開祖さま、会長先生が示してくださる人生のコンパスと地図の両方が不可欠だと思います。そう考えると、道を間違えることはなく、幸せは保証されると思います。

## 今後の抱負や将来に向けた夢を聞かせてください。

今後も教会の歴史のルーツであり、私たちに仏さまの教えを伝えてくれた日本人サンガに敬意を示し、その存在を大切にしていきたいと思っています。そして、アダムス・ニューヨーク市長が期待されているように、これからも私たちサンガがひとつになってさらに仏さまの教えをニューヨークに広めて、仏教によってニューヨークの街を、そして世界を変えていきたいと願っています。

# まんが 立正佼成会入門

## 会員になったら

### 三つの宝

仏さまは「三つの宝(三宝)」を大切にしなければと教えてくださっています。三つの宝とは「仏・法・僧」のことで、りっぱな仏教徒になるための基本となる心のよりどころです。

「仏」とは仏さま、ご本尊さま(久遠実成大恩教主釈迦牟尼世尊)のこと。

「法」とは仏さまの教え。

「僧」は教えを守り、実践する仲間。サンガともいいます。

この三つの宝をよりどころとして教えを実践していけば、幸せな生活が送れるのです。



#### 豆知識

「仏・法・僧」の「三つの宝」をよりどころすることを、「三宝帰依」という。三宝に帰依することが仏教徒にとっての根本とされていて、立正佼成会でも大切にしている考え方だ。



『まんが立正佼成会入門』は、佼成ショップにて好評発売中です。

<https://www.koseishop.com/>

## 会員綱領



「かいじんこうりょう会員綱領」とは、立正佼成会の創立の精神や目的、会員としての修行の目標などをみじかい言葉で示したものです。

立正佼成会会員は  
本仏積尊に帰依し  
開祖さまのみ教えに基づき  
仏教の本質的な救われ方を認識し  
在家仏教の精神に立脚して  
人格完成の目的を達成するため  
信仰を基盤とした行学二道の研修に励み  
多くの人々を導きつつ自己の練成に努め  
家庭・社会・国家・世界の  
平和境(常寂光土)建設のため  
菩薩行に挺身することを期す

### 豆知識

「行学二道」の「行」は法華経の教えを实践すること。実践してみてもじめてどこが学び足りないかがわかり、「学」の大切さもわかる。学んでは行ずる、行じては学ぶ。二つは車の両輪のようなものだ。



人に説いて自分が悟る  
すべての人を「仏の境地」に

立正佼成会開祖 庭野日敬



法華経で説かれている「五種法師」の四番目に「解説」ということがあげられています。これは「受持」「読」「誦」という、やや受け身の姿勢から一步踏み出した積極的な行ないで、これが「五種法師」のなかでいちばん大事な行であると私は思います。

その理由は、二つあります。

第一は、法華経はすべての人を仏の境地に導くことを理想とする教えですが、自分だけがそれを受持・読誦して「救い」を得ても、お釈迦さまがこのお経を説かれたお心からすれば、まだまだ距離がある、ということです。

「仏の境地」といえば、たいていの人が「とても自分たちにはおよびもつかない」とさじを投げる気持ちになるでしょうが、そうではないのです。「仏」というのは「目ざめた人」ということです。宇宙と人生の真実に目ざめ、悟った人が「仏陀」なのです。

では、なぜ多くの人を「仏の境地」に導くことが必要なのでしょう。早い話が、現在の世界の情勢に思いをめぐらせ、近未来の人類のあり方をつくづくと予測してみるといいでしょう。

いまの人類は、おしなべて「食欲」に明け暮れています。そのため環境の破壊、資源の枯渇、人為的な気候異変による大飢饉などが起こり、このままいけば百年もたたないうちに人類のほとんどが死滅するだろう、と予測する科学者もいます。現在の地球は、まさに法華経の「譬諭品」に説かれている「火宅」にほかならないのです。つまり、大きな屋敷が燃えさかっているのです。その「火宅」から逃れ出る道は一つしかありません。

「譬諭品」には、「其の家广大にして唯一門あり」とあります。その「一門」とは何かといえば、「食欲」を抑制することです。「少欲知足」の生活にもどることです。しかし、これはいうことはできても、なかなか実行できることではありません。そのことは、みなさんが肌で感じとっておられることでしょう。

では、どうすればいいのでしょうか。「譬諭品」の「三車火宅のたとえ」では、「火宅」の門外に仏さまが用意してくださった「羊車」(声聞の境地)、「鹿車」(縁覚の境地)、「牛車」(菩薩の境地)を求めて走り出なさい、と教えられています。

つまり、「目ざめた人」になる道を求めるほかに、私たちが救われる道はないのです。言葉を換えていえば、すべての人にそなわっている「仏性の開顕」ということです。それを達成すれば、「食欲」はいつのまにか自然消滅してしまうのです。ただ一つの門というのは、この「仏性の開顕」にほかなりません。

# Director's Column

## 年の初めの「自浄其意」

国際伝道部長  
赤川 恵一

新年あけましておめでとうございます。「部長コラム」の執筆を始めてから早や4年目を迎えました。本年も本コラムを通して仏教の研鑽を重ね、読者の皆さまと対話を続けてまいりたいと思います。

教団創立60周年の節目に、教団方針「心田を耕す」が定められ、四半世紀が経過しました。この言葉は、お釈迦さまがご在世中に婆羅門に対して、「汝は土地を耕すが、我は人々の心田を耕す」と語った逸話が原点とされております。会長先生は昨年から継続して、ご法話の中で「元気で精進を」と強調されていますが、それは心田が豊かに耕されてこそ実現するものと確信しております。

そのために、仏教徒としての基本的な戒めである「七仏通戒偈」にも説かれている自己の心を浄めていくこと（自浄其意）に意を注ぎ、2024年を心豊かに過ごすために、釈尊の願いに沿った生き方をしているか、自己中心な受け止め方に傾いていないかを自身に問いかけ、瞬間ごとに変化する自らの心を今一度内省してまいりたいと思います。仏教徒として生きる基本を身に着け、安心して希望の持てる日々を送れるよう皆さまと精進を重ねてまいりたいと思います。本年もよろしく願いいたします。



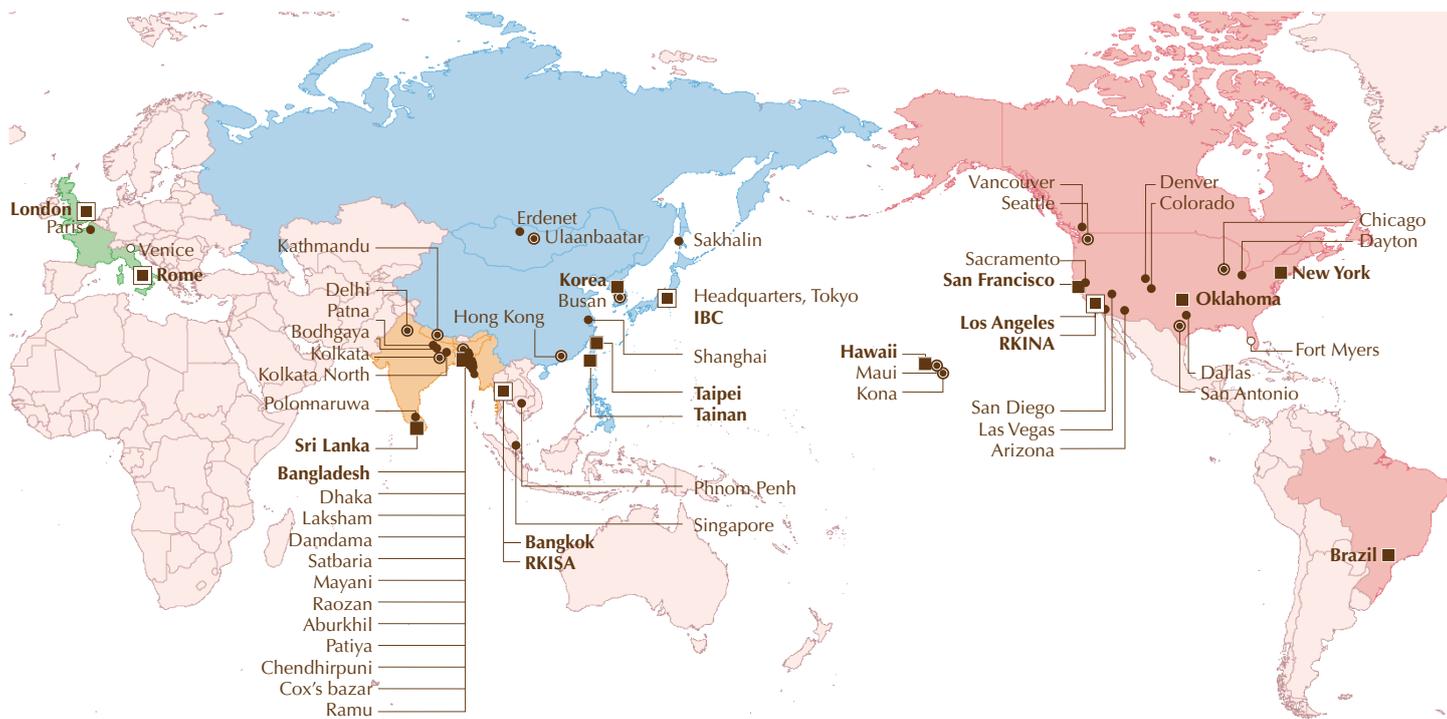
2023年12月17日、サンフランシスコ教会長就任式に出席した赤川部長（中央）

# Rissho Kosei-kai International

Make Every Encounter Matter



## 🌸 A Global Buddhist Movement 🌸



Information about local Dharma centers

facebook

twitter



✉ Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。  
 お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。  
 E メール : [living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp](mailto:living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp)